

北海道支部ニュース 第55号

日本分析化学会 北海道支部 2017 年 7 月

支部設立 60 周年



日本分析化学会北海道支部長
加藤 昌子 (北海道大学)

昨年に引き続き 2017 年度も北海道支部長を務めております北大理学研究院の加藤です。今年度も種々支部行事が計画されています。ご担当いただく先生方には大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

夏の行事としては、7 月に第 33 回となる「緑陰セミナー」が、北大理学研究院の三浦篤志先生を実行委員長として旭川にて開催されます。この支部ニュースが発行される頃には、最新ニュースとして詳細がご覧いただけるものと思います。また、九州支部との若手交流事業は、今年は北海道から九州支部若手の会「夏季セミナー」へ学生さんが参加する形で 7 月下旬に行われます。北大地球環境科学院の山田幸司先生にはいつもお世話になりますが、ぜひ活発な交流をお願いいたします。同じく 7 月下旬には、「化学系学協会北海道支部 2017 年夏季研究発表会」が旭川で行われます。分析化学会の担当は旭川高専の堺井亮介先生をお願いしております。

秋には、「2017 年度公開セミナー」を北大水産科学研究院の大木淳之先生に函館にて計画していただいております。11 月には「北海道地区化学教育研究協議会」が北海道薬科大学の三原義広先生

のお世話で札幌にて開催予定です。年明けの 2018 年 1 月には恒例の「冰雪セミナー」が行われます。第 53 回となる今年度のセミナーは、北大工学研究院の谷博文先生にお世話いただくことになっております。ぜひ多くの支部会員の皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。また、1 月中旬には「化学系学協会北海道支部 2018 年冬季研究発表会」が札幌で行われます。今年の冬季研は分析化学会の担当で、北大工学研究院の渡慶次学先生、薬科大学の三原義広先生にお世話になります。

さて、表題にも書きましたように、今年は特別行事として節目のイベントがあります。支部設立 60 周年を祝って、10 月 28 日(土)に「記念式典、記念講演会」を開催予定です。支部の歴史に精通されている北大地球環境科学研究院の田中俊逸先生を実行委員長に、北大工学研究院の坂入正敏先生が準備を進めてくださっています。ぜひ、すべての支部会員の皆様にご参加いただきたく、カレンダーに予定を入れておいてください。会員の皆様とこれまでの支部活動について振り返るとともに、次の 10 年についても語り合える良い会になればと願っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(かとう・まさこ)

これからの行事予定



2017 年 夏季研究発表会

日本化学会北海道支部 2017 年夏季研究発表会が、7 月 22 日(土)に旭川工業高等専門学校(071-8142 旭川市春光台 2 条 2 丁目 1 番 6 号)において開催されます(主催:日本化学会北海道支部、共催:日本分析化学会北海道支部ほか)。今回は 90 件の口頭発表が、5 会場で行なわれます。また、秋田谷 龍男 先生(旭川医科大学)および谷口 功 先生(日本化学会副会長・国立高等専門学校機構)による 2 件の特別講演が予定されています。プログラム等の詳細に関しましては夏季

研究発表会のホームページを御覧ください。
(<http://pcat.cat.hokudai.ac.jp/kakiken>)

懇親会は 同日 19 時 00 分より大雪地ビール館(旭川市宮下通 11)にて開催されます。発表会場から懇親会会場までの移動には、バスが用意されていますので御利用ください。事前登録は既に締め切られておりますが、当日でも参加可能です。多くの会員の皆様にご参加頂ければ幸いです。

(旭川工業高等専門学校・堺井亮介)



支部設立 60 周年記念式典・記念講演会

日本分析化学会北海道支部は昨年 2016 年、支部設立 60 周年を迎えました。昨年は分析化学会の年会在札幌で行われたこともあり、行うことができなかった記念事業を今年度を実施することになりました。

現在、記念事業実行委員会が中心になり、過去 10 年間の資料の収集等の記念事業の準備を行っているところですが、記念式典・記念講演会につきましては以下のように行われることになりました。記念式典の他、分析化学会会長の岡田先生、長らく北海道支部で活発に活動され、現在は広島大学で活躍されている石坂先生をお招きして講演会が行われます。多くの支部会員の皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

問合せ先 : 記念事業実行委員長

(北大院地球環境) 田中俊逸

shunitz@ees.hokudai.ac.jp

日時 : 2017 年 10 月 28 日(土)

場所 : 札幌グランドホテル(札幌市中央区北 1 西 4 地下歩道空間に直結)

13:30~14:00 記念式典、支部長挨拶、
来賓挨拶、支部功労者の表彰

14:10~15:30 記念講演会

日本分析化学会会長 岡田 哲男 先生
「凍結の化学と計測的展開」

広島大学院理 石坂 昌司 先生
「北海道支部で培った経験と知識に基づき新たな分析化学の開拓を模索する」

15:40~17:30 記念祝賀会

2017 年度 公開セミナー (海洋科学における分析化学)



日本分析化学会北海道支部主催で公開セミナーを実施します。道南函館での開催です。函館市は水産業が活発で、海洋研究にも力を入れています。海洋に係る分析化学をテーマに、お二人の講師に講演してもらいます。

日時：2017 年 11 月 10 日(金)16:30～18:00

場所：北海道大学函館キャンパス(水産学部)講義棟講義室(北海道函館市港町 3-1-1)

参加費：無料

1. 乙坂重嘉博士(おとさかしげよし) 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構・原子力科学研究部門
演題「海洋化学の視点から見る環境放射能」

乙坂博士は、1996 年に北海道大学水産学部水産化学科卒業後、博士課程までを札幌の同大学地球環境科学研究科で海水中粒子の元素組成について研究をしてきました。2000 年より日本原子力研究所(現：日本原子力研究開発機構)において、海洋における環境放射能など幅広い究を展開してきました。海洋化学と環境放射能の第一人者です。IAEA のプロジェクトメンバーを務められるなど、国際的にも活躍をされています。是非、講演を聴きにきてください。

2. 野村大樹博士(のむらだいき) 北海道大学大学院水産科学研究院・海洋環境科学分野・助教
演題「北極と南極での海水観測 ～氷の隙間にみえること～」

野村博士は、2003 年に関西大学工学部材料工学科を卒業後、北海道大学大学院地球環境科学研究科で博士課程までを過ごされました。その後、国立極地研究所、ノルウェイ極地研究所、北海道大学低温科学研究所を経て現職についています。大学院での研究から海水の分析化学に携わってきました。専門は、極域海洋生物地球化学、雪氷学です。毎年のように南極や北極に足を運び、極域海水という厳しい環境での観測を得意としています。野村博士は、国際科学会議の海洋研究科学委員会(SCOR)において、海水の物質循環研究のとりまとめを任されているように、世界の海水研究をリードしています。多くの皆様に海水研究の魅力を伝えてもらいます。

(北海道大学大学院水産科学研究院・大木淳之)

北海道大学・函館キャンパス周辺地図(4P 参照)とアクセス

所在地:函館市港町 3-1-1

JR 函館駅からバス 20 分、タクシー 10 分、JR 五稜郭駅から徒歩 20 分

<http://www2.fish.hokudai.ac.jp/departments-graduate-school/access>

【取り纏め・問い合わせ先】北海道大学大学院水産科学研究院 准教授 大木淳之

電話 0138-40-8870、E-mail: ooki@fish.hokudai.ac.jp



2017 年 北海道地区化学教育研究協議会

本会は教育研究所附属理科教育センターと日本化学会北海道支部化学教育協議会により準備運営され、日本化学会および日本分析化学会両北海道支部から支援されている行事です。昭和 30 年代初頭から 60 年に渡って開催されています。

化学教育に関する特別講演のほか、小中高校大学で化学教育に携わっている先生の提言も行われます。終了後、講師の先生も交えて懇親会も行われる予定です。多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

期日：2017 年 11 月 11 日(土)

会場：北海道大学大学院地球環境科学研究院

講演：特別講演(国立教育政策研究所 山中謙司先生)および小中高等学校教諭並びに
大学教員4名による研究発表(提言・取組)を予定しています。

参加費・懇親会・申込方法：日本化学会北海道支部のホームページ

(http://homepage1.nifty.com/csjh/moyoshi_chikukagakukyoiku.htm)に近日掲載致します。

担当幹事：三原(電話:011-676-8632 電子メール:mihara-y@hokuyakudai.ac.jp)までお問い合わせください。

(北海道薬科大学・三原義広)



第53回 氷雪セミナー

本年度の氷雪セミナーは、これまでと少し異なり、定山溪において三連休の最初の二日間を利用して開催する予定となっております。現在、講師一名が未確定のため、期日と会場、申込先等のみご案内いたします。年初早々ではございますが、分析化学について考える良い機会となるよう準備を進めてまいりますので、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

期日：2018年1月6日(土)13時30分～
2018年1月7日(日)11時00分予定

会場：定山溪万世閣ホテルミリオネ
(札幌市南区定山溪温泉東3丁目)

電話：011-598-3500

<http://www.milione.jp/>

交通手段：

- (1) JR 札幌駅よりじょうてつバス 12 番のりば「定山溪行き」または「豊平峡温泉行き」乗車、「定山溪停留所」下車、徒歩 1 分(所要時間約 90 分)。詳しい時刻はじょうてつバス web サイトでご確認ください。
- (2) 札幌中心部から約 28 km、車で約 1 時間。

送迎バスは検討中です。ホテルの web サイトでもご確認ください。

スケジュール：

一日目 異なる分野の専門家からご自身の研究と教育に関する講演(3件予定)

二日目 異分野の状況を見据えながら、分析化学とその教育の将来に関する意見・提案・討論などの総合ディスカッション

講師：(現在選定中)

懇親会：一日目の講演会終了後、ホテル内の宴会場にて開催。

参加費：約 1 万 4 千円(参加人数により変更)

申込方法：氏名・所属・連絡先を明記の上、E-mail あるいは郵送にて下記までお申し込みください。

申込先：〒060-8628 札幌市北区北 13 条西 8 丁目、北海道大学大学院工学研究院 谷 博文

申込締切：2017 年 12 月 1 日(金)

電話：011-706-6743

E-mail：tani@eng.hokudai.ac.jp

(北海道大学大学院工学研究院・谷博文)

これまでの終了行事報告



第52回 氷雪セミナー

第 52 回氷雪セミナーは、平成 29 年 1 月 8 日(日)、9 日(月)の両日、南幌温泉ハート&ハートで開催されました。メインテーマとして、“北海道の農業・食品・教育の現状、将来と問題等について”を掲げ、北海道内でご活躍の 3 名の方々に話題提供をいただきました。

第1日目は、北海道支部長の加藤昌子 先生に開会のご挨拶をいただいた後、夕方までに3件の講演すべてをお聞きしました。参加者は、25名(大学等20名、企業5名)で、多くの方々による質疑応答がきわめて活発に行われたことが印象的でした。今回のセミナーは比較的に狭い和室で座布団を敷いての寺子屋スタイルを当初予定しておりましたが、温泉施設フロントのご配慮によって十分な広さの椅子席の会場に変更となり、予想外の快適なセミナー環境となりました。講演終了後は同温泉にて懇親会が開催されました。田中俊逸 先生にご挨拶と乾杯の音頭をとっていただき、各テーブルでそれぞれの話題で盛り上がった後に参加者がそれぞれ個性的な自己紹介をとても和やかな雰囲気でした。また、講演者の曾根先生には、「お話だけでは理解に不十分であろう」というご配慮からワインの実物までサービス頂きましたことに重ねてお礼致します。

2次会も“世話人+若手”の部屋で行いました。温泉もとても評判がよく、ゆったりとした時が流れました。

2日目は、日帰り入浴者用レストランで朝食を済ませた後、坂入 先生を座長として開始されました。各講師の方に加えて理科教育センターの佐藤 大 先生に前日の講演のまとめや追加項目などの説明をいただき、テーマに関わる個別の質疑応答、さらに、これらのテーマと分析化学との関わりを考える全体ディスカッションというスケジュールで進行了ました。全く異なる分野の3件のご講演はいずれも新鮮で情報量も多く、大変に有意義な楽しいひとときになりました。ご講演を快くお引き受けくださった講師の先生方、ご参加いただいた方々、そしていろいろな面でこの企画をサポートしてくださった方々に、心から感謝申し上げます。

なお、来年度(平成29年度)の冰雪セミナーは、谷 博文 先生(北海道大学大学院工学研究院)のお世話で開催されることになっています。

(北海道教育大学・札幌校 蠣崎悌司)



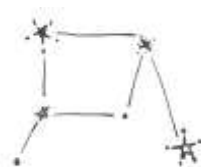
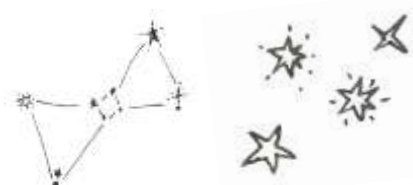
1. 「ワインの化学と微生物学」
(北大農学研究院) 曾根輝雄 氏



2. 「食べ物の美味しさを物理で考える」
(酪農学園大農食環境学群)
金田 勇 氏



3. 「北海道における初等・中等理科
(化学) 教育と「理セン」の役割」
(北海道立教育研究所附属理科教育センター)
伊藤崇由 氏





第 52 回氷雪セミナー参加者

第 33 回 分析化学緑陰セミナー

第 33 回分析化学緑陰セミナーが 2017 年 7 月 8 日(土)、9 日(日)に旭川市の旅亭「雪の屋」で開催され、道内各地の大学から 56 名の参加がありました。今年度はバイオ界面と材料開発・計測をテーマに、大阪大学の山下一郎先生より「バイオとナノのインタラクティブ界面へ向けて」、東京工業大学の林智弘先生より「分子レベルで議論する生体不活性特性: メカニズムの解明からデータ科学を利用した材料設計へ」、豊田工業大学の熊谷慎也先生より「大気圧プラズマ照射型細胞培養デバイス: 細胞の生命活動に影響する活性種は何か?」、長崎大学の作田絵里先生より「典型元素を利用して光機能性材料を創る～発光性材料から触媒反応まで～」、北海道大学の雲林院宏先生より「ナノ領域での化学を検出・制御する表面プラズモン」といったタイトルで、生体材料をテンプレートにした材料・デバイスや、新規発光性材料の開発、走査プローブ顕微鏡や MEMS デバイス、貴金属ナノ材料を利用したバイオ計測に関

してお話しいただきました。

今回の緑陰セミナーでは、セミナーの質疑応答中の学生から講師への質問も審査の対象とし、最もポイントを突いたクリティカルな質問を行った学生へは最優秀討論賞を、最も積極的に討論に参加した学生へは討論敢闘賞を授与することとしました。このおかげもあり、講演の質疑応答では参加学生から講師へ非常に多くの質問がなされ、学生を中心とした非常に活発な質疑応答が行われました。参加教員により各質問を審査した結果、3 件の最優秀討論賞と 1 件の討論敢闘賞が授与されました。

また、参加学生・若手研究者による 19 件のフラッシュプレゼンテーションとポスター発表も行いました。狭いポスタースペースでの比較的短時間のポスターセッションではありましたが、すべてのポスターで学生同士の熱のこもった討論が行われていたのが印象的でした。参加者全員による審査・採点を行い、優秀ポスター賞 3 件の授与が決定されました。

8日夜に行われた懇親会では、参加学生による所属研究室の紹介が行われ、お酒を飲みながらのくだけた雰囲気の中で学生同士、あるいは講師の先生方と交流を深める様子が散見されました。緑陰セミナーの目的の一つでもある、分析化学に携わる学生・若手研究者などが一堂に会して情報交換や討論を通じて交流を深めるという目的は、

大いに達成されたと思われます。普段の自身が行っている研究で触れる「分析化学」とは異なる分野での最新の研究内容について学ぶことで、研究の視野を広げ知識を深めるとともに、学生主体の参加者同士の活発なディスカッションが行われた非常に有意義な会でありました。

(北海道大学大学院理学研究院 三浦篤志)



写真 1 講師の大阪大学 山下一郎先生

写真 3 ポスターセッションの様子

写真 2 セミナーの風景

写真 4 参加者全員で集合写真

化学系学協会北海道支部 2017 年冬季研究発表会



化学系学協会北海道支部 2017 年冬季研究発表会(共催:日本分析化学会・日本化学会・触媒学会・電気化学会・腐食防食学会・表面技術協会・石油学会の各北海道支部)が、2017 年 1 月 17 日(火)・18 日(水)の両日、北海道大学フロンティ

ア応用科学研究棟で開催されました。

参加登録者数は 432 名(一般 129 名、学生 302 名、招待者 1 名)でした。225 件の一般講演(口頭発表 111 件およびポスター発表 113 件)と 1 件の特別講演が行われ、活発な質疑応答や議論がありました。

特別講演には、大阪大学大学院工学系研究科 桑原 進先生をお招きし、「イオン液体をキーマテリアルとしたナノ材料化学と分析化学の新技术開発」と題してご講演いただきました。学生の講演に対して優秀講演賞が選定され、各所属校で受賞者へ表彰状を授与しました(口頭発表 9 件、ポスター発表 0 件)。学生表彰に関して、口頭発表については例年通り行うことができましたが、ポスター発表に対して審査員の数を十分に確保できず公平性を欠くため、今回は口頭発表に対してのみの表彰となっています。

1 月 17 日(火)の 17 時 30 分から、北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムにて懇親会が開催されました。桑原先生を含め 63 名の参加のもと、盛況な会となりました。懇親会場は昨年 2016 と同じくレストランエルムでした。次年度へさらなる学生の懇親会参加を期待します。

2014 年冬季研発表会から、経費削減と実行委

員の負担軽減のため要旨集の電子化と参加申込の web 登録(受付での用紙記入による当日登録の廃止)を実施し、方式変更 4 年目でしたので問い合わせも少なく、当日の受付においても混乱は生じませんでした。要旨集電子化と web 登録そのものについては、概ね評価をいただいております。来年度以降の冬季研でも引き続き行われるかと思えます。昨年度からプログラム集を廃止して、クリアファイルを導入するスタイルを今年度も踏襲しました。この簡略化に対して大きな問題が生じていないため、このスタイルを今後も続けていきたいと考えています。

昨年 9 月のフロンティア棟の使用料値上げに伴い、広告料を増やす事に努め、学生の参加費(前年まで無料)によっても補う事を実施した結果、最終的に黒字の決算で終える事が出来ました。次回は本学会が幹事団体となります。今後とも冬季研の運営にご理解とご協力いただければ幸いです。

(北海道薬科大学・三原義広)

2017 年度 支部役員



支部長	加藤 昌子 (北海道大学)
副支部長	伊藤 慎二 (北海道薬科大学)
	渡慶次 学 (北海道大学)
庶務幹事	三浦 篤志 (北海道大学)
	南 尚嗣 (北見工業大学)
会計幹事	坂入 正敏 (北海道大学)
	谷 博文 (北海道大学)
監事	宇都 正幸 (北見工業大学)
	黒澤 隆夫 (北海道医療大学)

参与 18 名 幹事 42 名

事務局 氏間 多伊子

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西
8 丁目北海道大学理学院内
公益社団法人日本分析化学会
北海道支部 支部長 加藤 昌子
E-mail : jsac-hb@w9.dion.ne.jp

2017 年度 事業計画

開催日	事業名	担当	開催地
4月28日 (金)	第1回幹事会	支部長	札幌
7月8-9日 (土-日)	第33回分析化学緑陰セミナー	三浦篤志	旭川
7月中旬	支部ニュース第55号	三原義広 真栄城正寿	—
7月中旬	2018年度役員候補者選考委員選挙	支部長	—
7月22日 (土)	2017年夏季研究発表会	堺井亮介	旭川
7月28-29 (金-土)	若手交流事業 (九州支部若手の会夏季セミナーへの学生派遣)	山田幸司	福岡県 朝倉市
8月下旬～ 9月上旬	2018年度役員候補者選考委員会	支部長	札幌
10月上旬	2018年度学会賞等受賞候補者推薦及び 2017年度北海道分析化学各賞受賞者選考委員会	支部長	札幌
10月予定	第2回幹事会	支部長	札幌
10月28日 (土)	設立60周年記念事業 (記念式典・記念講演会等)	田中俊逸 坂入正敏	札幌
11月10日 (金)	2017年度公開セミナー	大木淳之	函館
11月11日 (土)	北海道地区化学教育研究協議会	三原義広	札幌
12月中旬	支部ニュース第56号	三原義広 真栄城正寿	—
1月6-7日 (土-日)	第53回氷雪セミナー	谷 博文	札幌
1月16-17日 (火-水)	化学系学協会北海道支部 2018年冬季研究発表会	渡慶次学 三原義広	札幌
1月17日 (水)	2017年度北海道分析化学各賞授賞式	支部長	札幌
2月下旬	審議会(第3回幹事会)	支部長	札幌

2016 年度 会計報告の概要

【支 出】

【収 入】

臨時雇賃金	240,000	支部費	816,900
会議費	92,565	年会余剰金	3,050,000
旅費交通費	260,000	印税収入	47,300
通信運搬費	55,458	受取利息	9
消耗品費	45,688	収入合計(A)	3,914,209
印刷製本費	23,575	当期収支差額(A-B)	2,468,602
支払助成金	280,000		
内部支払助成金	322,963		
委託費	32,400		
表彰費	90,690		
雑費	2,268		
支出合計(B)	1,445,607		



支部会員の欄

この欄では北海道支部の転入や転出、新入会などの情報をお伝えします。「ぶんせき」誌(2017年1月号～6月号)「お知らせ欄」から転載。なお、今春以降にご入会の会員は次号に掲載させていただきます。

新入会のみなさん (敬称略、順不同)

木内 美和 (北海道大学創成研究機構)

加賀 岳朗 (北海道立衛生研究所)

武田 希美 (北海道大学創成研究機構)

柴田 陽介 (榊福田水文センター)

久保竜太郎 (北見工業大学工学部)

重田 泰宏 (北海道大学大学院総合化学院)

編集後記



支部ニュース第55号をお届けいたします。この度、ご多忙の中、ご執筆頂きました加藤支部長をはじめ執筆者の皆様には、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。支部の活動をニュースとしてまとめる作業に携わり、改めて一つ一つの支部活動が長年継続して行われていることに驚きます。今回、新入会の皆様を迎え、今後も益々活発な支部活動となるように尽力してきたいと思いますので、今後とも、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

(編集委員：真栄城正寿、三原義広)

北海道支部ニュース 第55号

公益社団法人日本分析化学会北海道支部事務局
札幌市北区北 10 条西 8 丁目北海道大学理学院内
支部長 加藤 昌子
TEL : 011-706-3817 E-mail : jsac-hb@w9.dion.ne.jp
URL : <http://www.jsac.or.jp/~hokkaido/index.html>

編集・発行
公益社団法人
日本分析化学会北海道支部
発行日
2017 年 7 月 20 日